

避難を考える①

情報の種類と意味

様々な情報の種類と意味を知り避難行動に役立てましょう!

気象情報

警報・注意報の種類		説明
大雨 (土砂災害・浸水害)	注 意 報	大雨により災害が起こるおそれがあると予想される場合に発表される予報
	警 報	大雨により 重大な 災害の起こるおそれがあると予想される場合に発表される予報
	特別警報	大雨により重大な災害の起こるおそれが 著しく大きい と予想される場合に発表される予報
洪 水	注 意 報	洪水により災害が起こるおそれがあると予想される場合に発表される予報
	警 報	洪水により 重大な 災害の起こるおそれがあると予想される場合に発表される予報
土砂災害警戒情報		大雨による 土砂災害発生の危険度が高まった とき発表される防災情報
記録的短時間大雨情報		大雨警報が発表されている時に、数年に1回程度発生する 激しい短時間の大雨を観測、または解析したこと を発表される情報(90mm/時間)

河川水位情報 川の水位が上昇し、洪水のおそれがあるとき、国土交通省・京都府から河川の水位情報が福知山市に通知され、**市は各河川の基準となる水位を越え、なお上昇すると判断した時に避難情報を発令します。**



避難情報と避難行動

警戒レベル

5

災害発生
又は切迫



新たな避難情報等

きんきゅうあんぜんかくほ
緊急安全確保

サイレンの吹鳴(すいめい)
1分(5秒休止)の繰り返し



～～～**警戒レベル4までに必ず避難！**～～～

4

災害の
おそれ高い



ひなんしじ
避難指示

サイレンの吹鳴(すいめい)
10秒(5秒休止)の繰り返し



3

災害の
おそれあり



こうれいしゃとうひなん
高齢者等避難

サイレンの吹鳴(すいめい)
10秒(15秒休止)の繰り返し



2

気象状況悪化



大雨・洪水注意報
(気象庁)

1

今後気象状況
悪化のおそれ



早期注意情報
(気象庁)

すでに安全な避難ができます
命が危険な状況です。
警戒レベル5緊急安全確保の
発令を待ってはいけません！

災害の状況を確実に把握できる
ものではないため、警戒レベル5
は必ず発令される情報ではありません。

これからは、
警戒レベル4避難指示で
危険な場所から全員避難
しましょう。
避難勧告は廃止されます。

避難指示は、これまでの避難勧
告のタイミングで発令されるこ
とになります。

避難に時間のかかる
高齢者や障害のある人は、
警戒レベル3高齢者等避難で
危険な場所から避難
しましょう。

高齢者等以外の人も、避難の準
備をしたり、危険を感じたら自
主的に避難するタイミングです。

避難を考える②

日頃しておくこと

安全な避難場所は
ここだよ、日頃から
皆で確認しておくことだね!



1. 自宅周辺の災害の危険性を把握しておきましょう

洪水や土砂災害が起きたときに、自宅が倒壊したり、深く浸水したりする危険性がないかを把握し、自宅の外へ避難する必要があるのか、自宅にとどまる方が安全となるのか確認しておきましょう。

2. 非常備蓄品の準備をしておきましょう

水道や電気、ガスなどのライフラインの停止に備えて、飲料水や食料などを準備しておきましょう。

非常備蓄品の準備は [裏表紙へ](#)

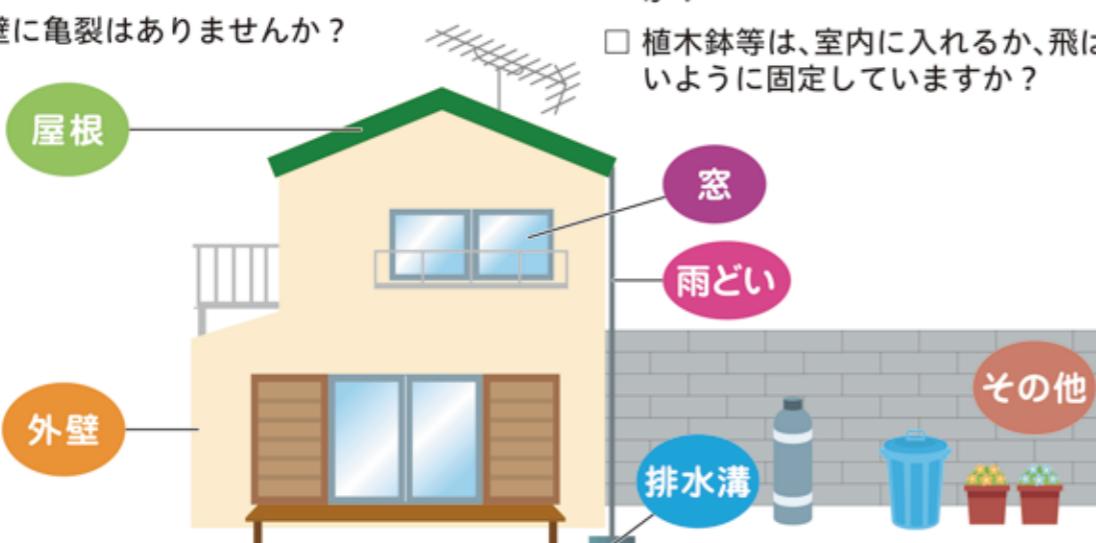
3. 避難場所・経路・方法を確認しておきましょう

安全な避難場所と避難経路を、家族や地域で確認しておきましょう。
また、徒歩で避難することが基本ですが、事情により車で避難する場合は、浸水しやすい道路を避けましょう。

4. 家の周りを確認しましょう

大雨や暴風のときに雨漏りや浸水などの原因となります。日頃から点検や掃除をしておきましょう。

- 屋根の瓦がひび割れたり、はがれていませんか？
- 雨戸にがたつきはありませんか？
- 壁に亀裂はありませんか？
- 雨どいに落ち葉などが詰まっていますか？
- 排水溝にゴミや土砂が詰まっていますか？
- 植木鉢等は、室内に入れるか、飛ばされないように固定していますか？



大雨が降りそうになってきたら…

情報を収集して避難判断をしましょう



- テレビ
- 携帯電話
- ラジオ
- パソコン
- 雨量・河川水位情報などの収集を!

浸水する前に

家財を高い場所に移動しましょう

水に浸かってしまった家財は一瞬にしてゴミとなってしまいます。貴重品や衣類などは、早めに高い場所に移動しましょう。



家屋の浸水を軽減しましょう

ご家庭にある物を使って家屋への浸水を防ぎましょう。玄関などの出入口のみならず、床下への浸水の防止も重要です。



避難を考える③

2つの避難方法

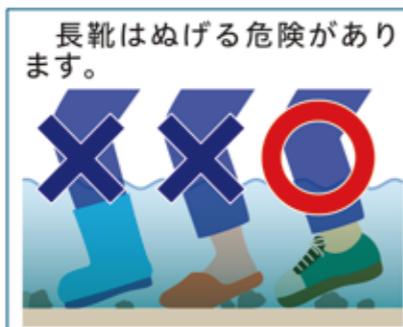
注意して避難しましょう

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動は極力避けなければいけません。そのため避難することがかえって危険な場合は、避難所への避難(水平避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階など高い場所への避難(垂直避難)を行い救助を待つという判断も必要です。



1. 避難所への避難(立ち退き避難・水平避難)

やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意



ご近所に声をかけましょう

単独での避難は、思わぬ事態にあったときに危険です。
避難する前に隣近所に声をかけ、集団での避難を心がけましょう。



避難所ではお互いに気を遣いましょう

避難所では、不特定多数の人々が一定期間滞在することになります。
お年寄りや障害のある人、乳幼児を抱えた方などへの気配りを心がけましょう。



2. 高い場所への避難(垂直避難)

身の安全を確保しましょう

避難所に避難することが、かえって危険な場合は、近隣ビルの高層階や自宅の2階など高い場所へ避難しましょう。



浸水継続時間について

浸水が長期にわたると想定される地域において、自宅の2階といった高い場所へ避難(垂直避難)した場合、食料調達の不足、衛生環境の悪化、ライフラインの停止等というリスクがあります。

ハザードマップで自宅の浸水継続時間を確認し、日頃の備えや、災害時には早めの行動をとりましょう。



(洪水ハザードマップの手引きより)

避難のときのポイント

積極的に情報を収集する

避難をするためには、気象情報等の情報を収集することが大切です。テレビやラジオ、インターネットなどから積極的に情報を収集し、自分がとるべき行動を判断しましょう。

早めの避難

浸水や土砂災害の危険がある区域にお住まいの方は、早めの避難を心がけましょう。浸水が始まっている避難は、大変危険です。避難中に災害が発生して被害にあってしまうケースもあります。行動が遅れたら無理に屋外へ避難することはやめて、近隣ビルの高層階や自宅の2階など身近な高い場所へ避難しましょう。

地域での助け合い

過去の災害において多くの命を救ったのは、地域の人たちの助け合いでしました。災害が発生した場合には、ご近所どうしで声をかけあって、お互いに協力し助け合いましょう。

避難したけど災害が発生しなかったら…

POINT 早めに避難して、浸水も土砂災害も発生しなかったとき、損をした気持ちになるかもしれません。しかし、ものは考えようです。実践的な避難訓練ができるラッキーだったというような発想も大切です。一番避けたいのは、前回避難して何も起きたから、今回もきっと何も起きないと考え、避難せずに被害にあってしまうことです。